ISSN 0910－2396

野鳥だより

—北海道—

第 85 号

編集・発行　北海道野鳥愛護会

発行年月日　平成3年9月21日

キリアイ　1990年9月　撮影者　柳沢信雄

もくじ

私の探鳥地 (18)……井上　公雄……2
北海道に舞い降りた迷鳥たち (7)……山田　良造……3
栗山町の鳥類……沼野　正博……5
誌上写真展 (1)……9
探鳥会報告……11
探鳥会案内・鳥民だより……14

私の探鳥地 (18)

えりも岬付近

井上公雄

昭和62年12月この岬付近で、初めてコケワタガモが発見されて以来、多少時期違いはあるにせよ、毎年渡来して来ているのが確認されて居る。ここでの探鳥の時季は、12月－2月と真冬が良い。既報（71号75号）の通り、コケワタガモは岬先端から少し東側に回り込んだ沖合い、約200米位に在る小岩礁が集まった付近で、満潮時には一部の岩が僅かに頭を出す程度、干潮には小岩礁が点々とする。観察のポイントは観光会館ホテルの裏側の漁師風の家の前の納屋辺り。崖の上に在るので、海を見渡すのに絶好の場所、風向きによっては風防の役割を果たして呉れる。岬から漁港迄の沿岸は、断崖絶壁の岩礁地帯、この様な環境を好むシノリガモが多く、沖の方にはクロガモ、ウミアイサ、コオリガモ、アビ、オオハム、ウミスズメ、ハジロカイツブリ、アカエリカイツブリ、ミミカイツブリ、等も見られることもあるが少々遠い。崖の直下で4羽のコクガンを観察した事もあった。

眼を陸地に向けると、岬付近は丘陵地帯、潮風が強く植生に酷しく、草丈の低い海岸草が葦枯れ色に剝き出し、風雪にさらされ雪も殆ど積もらない。こんな原野に棲むノネズミを目当てにコミミズクが良く姿を現す。

岬漁港の在る市街地を過ぎ、庶野への道を挟んで帯状に整然と植栽されたニホンクロマツ、これを強風から保護する根曲り竹の防風柵が施され、一見何かな、と首を傾けたくなる。開拓時代からの乱伐、家畜の過放牧、風雨の浸食、イナゴ大発生による食害等によって、不毛の裸地に荒れ果て、強風は容赦なく表土を吹き飛ばし、粉塵は住民を悩まし、土砂の流失で海は汚濁、豊富であった魚類、海藻類は激減した。

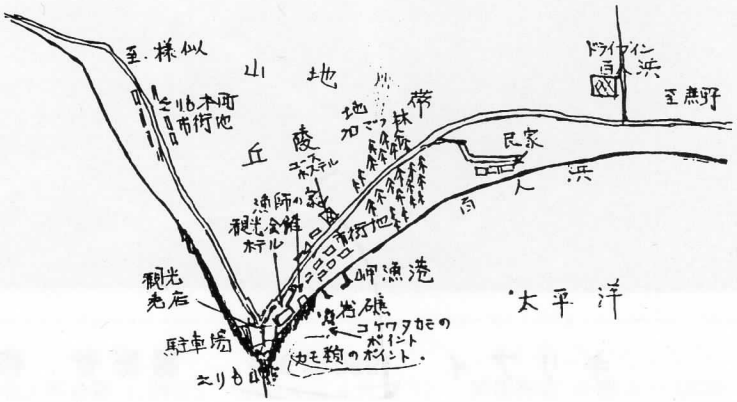
これらの被害から緑地回復を切望する地元の要望に応え、昭和29年緑化事業として植栽が始められ、今では全国松の名所百選にも挙げられる風景林に迄成長した。

この松林を過ぎた辺りの海岸寄りは、当時の面影を偲ばせる原野地帯。

暫く行き、山側に少し入った所に、ドライブイン百人浜が在る。この辺りまでの道路海岸寄りが、コミミズク、そしてノスリ、ケアシノスリ、ハイイロチュウヒ、ハヤブサ等のワシタカ類が良く見られ、ハギマシコの小群をも観察している。

一度に幾種ものワシタカ類を観察出来るのは、秋の渡りのシーズンを除いては機会が少ない。

特にポイントが在る訳ではないので、車での走行に注意し、ゆっくり走りながら探すことになるので、車以外は無理、岬西側から百人浜一帯の環境が丘陵－原野と続く海岸線、前述の他ユキホオジロ、シロフクロウ、シロハ



ヤブサ其の他、原野性の冬鳥が期待できそうな雰囲気、今度は何かがと、期待を抱きながら私は毎冬２－３回は行くが今までに空振りはなく、シーズンの到来を楽しみにして居る。

〒064　札幌市中央区南６条西11丁目　共済ハウス

北海道に舞い降りた迷鳥たち　(7)

山　田　良　造

北海道に渡来した迷鳥たちを調べていると、鳥学会や山階鳥類研究所、または日本野鳥の会記録委員会に報告されていない、勿論野鳥図鑑にも載っていない、「眠り記録」がかなりあることがわかった。こうした資料を含めてここに紹介したいと思います。

今回は旭川市小菅正夫氏、羽幌町寺沢孝毅氏、それに私の記録です。（鳥名番号は前号から続く）

23. キンメフクロウ（フクロウ科）

1990年５月26日、フクロウのヒナ１羽が保護され、旭川市旭山動物園に持ち込まれた。当動物園小菅正夫氏は、キンメフクロウと直感したが、まだうぶ毛のヒナで、アオバズクの可能性もあることから同定はできなかった。さらに２羽いることがわかり、残りのヒナも当動物園に保護された。しかし最も小さかった個体１羽は５月28日斃死した。

旭川動物園に保護された残りの２羽は元気に成長し、８月に入ると形態、特徴がはっきりし、キンメフクロウと同定されたもの。

キンメフクロウ　1991.4.27　旭川市旭山動物園　山田良造撮影

このヒナは５月24日、上川郡上川町愛別岳麓白川地区伐採現場で、上川営林署職員鼻山満春氏が、切り倒したタケカンバ空洞巣穴（苔が敷かれていた）から飛び出したヒナ３羽を保護したもので、大雪山系で繁殖した貴重な記録である。

生態、分布等は会報81号で井上公雄氏が掲載しており略します。

記録は1933年11月釧路支庁尾幌（北大博物館所蔵）、1955年１月新潟、1985年10月と1986年11月小樽、1989年５月根室、1990年鹿追、上川で繁殖、1991年稚内。

24. カラシラサギ（サギ科）

1983年４月29日、石狩町石狩川河口で行われたシギ、チドリ一斉調査のとき、カラシラサギが確認されたことを知った。当時岩見沢市にいた私は、５月４日午後１時頃、もしや見られる期待をもちながら、石狩川河口に近い石狩灯台付近で、ウミネコ、シロカモメ等を見ていた。このとき、100m先の石狩川浅瀬に、コサギに似た真白なサギ２羽いることに気づいた。このサギは岸辺沿いに採餌しながら、ときには走りながら餌を追い、私のいる方にどんどん近寄ってきた。冠羽を風になびかせ、黄色いくちばし、黒っぽく見える足、紛れもないカラシラサギ２羽で、これがそのときの写真です。

カラシラサギ　1983.5.4　石狩町石狩川河口　山田良造撮影

カラシラサギは全長約65cm、全身白色、繁殖期にはやや長い冠羽を生ずる。胸や背にもまっすぐな飾羽がある。くちばしは鮮黄色、目先の裸出部は青色、足は黒く足指は黄色又

は黄緑色。

ウスリー地方、中国東北地区、朝鮮半島北部で繁殖し、冬は南へ移動する。日本には旅鳥又は冬鳥として渡来し、本州、北海道に記録があるが数は少ない。

北海道には1972年（場所不詳）、1983年石狩、1987年５月静内等に記録がある。

25. コモンシギ（シギ科）

1990年９月23日午前10時頃、私は鵡川町鵡川河口付近でシギ類を観察していた。干潟を失った鵡川河口は、めっきりシギ類の渡来が少なくなり、この日は河口付近牧草地に、ダイゼン10羽余が飛びまわり採餌しているのが見られた。この群れにエリマキシギに似てはいるが、ひとまわり小さなシギが１羽入っているのに気づいた。この鳥は眼のまわりが丸く淡い色をし、黒くて細いくちばし、黄色の足等から、８年前の1982年９月28日、私が鵡川で見たことのあるコモンシギです。これがそのときの写真です。

コモンシギ　1990.9.23　鵡川町鵡川河口　山田良造撮影

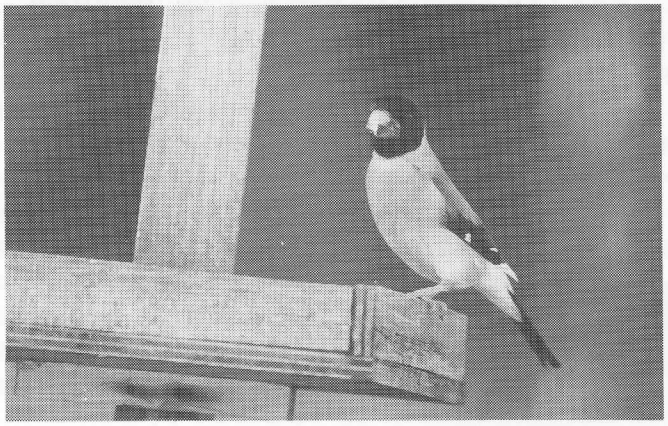
その後コモンシギは、牧草地から中州に移動した。この日北海道新聞社のグループと一緒に来ていた、小堀副会長も中州で休息するこの鳥を観察した。

生態、分布記録は、会報79号に掲載したので略します。

---

26. コイカル（アトリ科）

1991年５月24日、愛鳥モデル校として愛鳥活動の盛んな、羽幌町天売小学校のバードテーブルに、コイカルが飛来し、ヒマワリの種をついばんでいるのを、天売小学校教諭寺沢孝毅氏が観察した。コイカルは２日間天売島で休息し旅立っていった。



コイカル　1991.5.24　羽幌町天売島　寺沢孝毅撮影

コイカルは全長約18.5cm、くちばしは太くて大きい、♂は頭が黒く、首から背は灰褐色、翼と尾は青色光沢のある黒色、♀は頭に黒色がない。

ウスリー地方、中国東北地区、中国北部および中西部で繁殖し、冬はやや南に移る。

日本にはおもに冬鳥として渡来するが、西日本でよく見られ、1980年熊本県、1982年島根県浜田市で繁殖記録がある。

北海道には1974年５月利尻島、1985年天売島、1988年１月５日苫小牧ウトナイ、それに前記天売の記録と４例。

<参考文献>日本産鳥類図鑑（東海大学出版会）、鳥630図鑑（日本鳥類保護連盟）、北海道新聞報道記事参照。

〒003　札幌市白石区栄通16丁目４－13

※次号に掲載予定のもの

◎ワシミミヅク……現在旭川市旭山動物園で保護中のものを中心に

◎セボシカンムリガラ……キホウカンムリガラといずれが正しいのか日本野鳥の会記録委員会に問い合せ中のもの

◎シロハラクイナ　　◎ツルクイナ　　（以上）

栗山町の鳥類

沼野正博

栗山町は、札幌の東方40Kmに位置し、田園に囲まれた、のどかな町である。町の西側を夕張川が流れ、東側は夕張に続く山となっている。最高点は、標高509mの雨霧山である。

私は、この町に住むようになって5年目であり、昔の様子はわからないが、ここ5年間の記録をまとめてみた。

1．鳥類相について

これまで確認されている鳥類は、15目35科130種である。このうち、留鳥が28種（22%）、夏鳥が60種（46%）、冬鳥が16種（12%）、旅鳥が26種（20%）である。旅鳥の割合が大きいのが特徴で、その多くをカモの仲間で占めている。これらは、春、夕張川などで多数見ることができる。これは、栗山がちょうどウトナイ湖から宮島沼、サロベツなどをへて、シベリアに渡る水鳥達の通り道に当るためと考えられる。

夏鳥の多くは子育てのために栗山にやってきた鳥達で、繁殖が確認、あるいは確実視されているもので55種、実際には、おそらく60種以上の野鳥達が繁殖しているものと考えられる。

海から離れているので水鳥は少ないが、主な山野の鳥はほとんど記録されており、バラエティに富んだ環境が残されていることを示している。

2．四季の野鳥

春、雪が溶けて土が顔を出したばかりの水田に、ハクチョウ達が渡来する。年により異なるが、数百～一千羽程度が栗山で羽を休める。割合としてはコハクチョウが多いが、後半にはオオハクチョウも多く渡来する。栗山では、2～3週間程度滞在するようである。また、同じ頃、ガンが上空を多数通過する。時に水田に降りることもあり、今年は500羽程のヒシクイが立ち寄って行った。

夕張川には、カモ達が数多く渡来する。オナガガモ、ヒドリガモが多く、次いでコガモ、マガモなどで、時にはトモエガモやアメリカヒドリが混じることもある。オジロワシが見られるのも、この頃である。

4月～5月にかけて、夏鳥達が次々と渡来する。街のすぐ北に隣接する御大師山（標高115m）は、小鳥達を身近に観察する場所として適している。毎年5月のバードウィークに探鳥会を行っているが、オオルリ、キビタキなど30種以上の野鳥を観察することができる。御大師山では、年間を通じて約80種の野鳥が確認されている。

一方、夕張川周辺では、ノビタキ、ホオアカ、コヨシキリなど、草原の鳥が繁殖している。また、所々に残された三日月沼では、カイツブリやバンが繁殖しており、6月にはかわいいヒナの姿を見ることができる。

秋には、南の方に渡って行くツグミやヒヨドリの群れを見ることができる。御大師山では、数十羽の群れで渡るヒヨドリをいくつも見ることが出来、小さな渡りのコースになっているのかもしれない。時には、渡り途中のコルリやギンザンマシコ、ヤマシギなどが保護されることもある。一方カモは、コガモが少数立ち寄るだけで、秋にはほとんど姿を見ることができない。

冬鳥の渡来は、年により大きく変動がある。今冬は、レンジャクやイスカなどが渡来していたが、一ケ所にとどまらず、かなり移動していた。しかし、ヒレンジャクが多く渡来していたのが、今冬の特徴であろう。

近年、町内でも餌台を置く人が増え、越冬する小鳥達も増えているようである。私の餌台には、昨冬は100羽程のアトリ、今冬は70～80羽のシメが毎日のようにやってきた。それにつれて、以前は珍しかったハイタカも、街中で容易に見ることができるようになった。暖冬の影響もあると思うが、ハクセキレイやカワラヒワなど、以前は越冬しなかった鳥の越冬例も増えてきている。

3．ふるさといきものの里について

御大師山は、平成元年、「ふるさといきものの里」として、全道4ケ所（全国119ケ所）の1つに選ばれた。さらに、「蝶と緑の里」づくりが、全国2ケ所の補助事業に選ばれた。それをうけて、昨年度はビジターセンター的な役割をになう「ふれあいプラザ」が作られ、今年度は蝶の観察飼育舎などがつくられる予定である。御大師山で確認されているオオムラサキは、ほぼ北限にあたり、町のシンボルにもなっている。

栗山町は、自然教育に非常に力を入れており、いきものの里づくりの事業の他にも、小学校理科副読本づくり、町広報の「栗山の自然をさぐる」シリーズなど、高い評価を得ている。

「ふれあいプラザ」は、5月～11月が一般開放、12月～4月が団体開放となっているが、冬も餌台を置いており、誰でも自由に見て楽しむことができる。中には、御大師山の自然を紹介する展示、季節に応じた写真展などが行われている。

（以下は9頁につづきます）

栗山町鳥類目録（1991.4）

	科名	種名		繁殖	備考		科名	種名		繁殖	備考
1	カイツブリ科	カイツブリ	夏普	○		36		ヤマシギ	夏少		
2	サギ科	チュウサギ	旅稀		1988.5 鳩山	37		タシギ	旅少		
3		アオサギ	夏普			38		オオジシギ	夏普	○	
4	ガンカモ科	マガン	旅少			39	カモメ科	ユリカモメ	旅稀		
5		ヒシクイ	旅少			40		セグロカモメ	旅稀		
6		オオハクチョウ	旅普			41	ハト科	キジバト	夏普	○	
7		コハクチョウ	旅普			42		アオバト	夏少	○	
8		オシドリ	旅少			43	ホトトギス科	カッコウ	夏普	○	
9		マガモ	旅普			44		ツツドリ	夏普	○	
10		カルガモ	夏普			45	フクロウ科	コノハズク	夏少		
11		コガモ	旅普			46		フクロウ	留少	○	
12		トモエガモ	旅稀		1988.4 多良津橋	47	ヨタカ科	ヨタカ	夏少		
13		ヨシガモ	旅少			48	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	夏少		
14		ヒドリガモ	旅普			49		アマツバメ	夏少		
15		アメリカヒドリ	旅稀		1988.4 下水門，1991 角田	50	カワセミ科	ヤマセミ	留少		
16		オナガガモ	旅普			51		アカショウビン	夏少	○	
17		キンクロハジロ	旅普			52		カワセミ	夏普	○	
18		ミコアイサ	旅稀		1991 上水門	53	キツツキ科	アリスイ	夏少	○	
19		カワアイサ	旅普			54		ヤマゲラ	留少		
20	ワシタカ科	ハチクマ	夏稀		1988.5 御大師山	55		クマゲラ	留少		
21		トビ	留普	○		56		アカゲラ	留普	○	
22		オジロワシ	旅少			57		オオアカゲラ	留少		
23		オオタカ	夏少			58		コゲラ	留普	○	
24		ツミ	夏少			59	ヒバリ科	ヒバリ	夏普	○	
25		ハイタカ	留少			60	ツバメ科	ショウドウツバメ	夏普		
26		ノスリ	冬普			61		ツバメ	夏少	○	
27		ハヤブサ	旅稀		1988.6 夕張川	62	セキレイ科	キセキレイ	夏少		
28		チゴハヤブサ	夏少	○	1989，1990，1991 旭台	63		ハクセキレイ	留普	○	
29		チョウゲンボウ	夏少			64		セグロセキレイ	夏少		
30	キジ科	エゾライチョウ	留少	○		65		ビンズイ	夏普		
31		コウライキジ	留普	○		66	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留普	○	
32	クイナ科	バン	夏普	○		67	モズ科	モズ	夏普	○	
33		オオバン	旅稀			68		アカモズ	夏少	○	
34	チドリ科	コチドリ	夏少			69		オオモズ	旅稀		
35	シギ科	イソシギ	夏普	○		70	レンジャク科	キレンジャク	冬普		

	科名	種名		繁殖	備考		科名	種名		繁殖	備考
71		ヒレンジャク	冬少			106		カシラダカ	旅少		
72	カワガラス科	カワガラス	留少	○		107		ミヤマホオジロ	冬少		
73	ミソサザイ科	ミソサザイ	留少			108		シマアオジ	夏稀		
74	ヒタキ科	ノゴマ	夏少			109		アオジ	夏普	○	
75	ツグミ亜科	コルリ	旅稀		1989.9 中央3丁目	110		クロジ	冬稀		1989.4 桜丘
76		ルリビタキ	冬少			111		オオジュリン	夏少		
77		ノビタキ	夏普	○		112		ユキホオジロ	冬稀		
78		トラツグミ	夏少			113	アトリ科	アトリ	冬普		
79		クロツグミ	夏普	○		114		カワラヒワ	夏普	○	
80		アカハラ	夏普	○		115		マヒワ	冬普		
81		シロハラ	冬普			116		ベニヒワ	冬稀		1989.3 南学田
82		ツグミ	冬普			117		オオマシコ	冬稀		
83	ウグイス亜科	ヤブサメ	夏普	○		118		ギンザンマシコ	冬稀		1987 各地，1990 角田
84		ウグイス	夏普	○		119		イスカ	冬少		1989.3 栗山高校 1991各地
85		エゾセンニュウ	夏普	○		120		ベニマシコ	夏少		
86		コヨシキリ	夏普	○		121		ウソ	夏少		
87		オオヨシキリ	夏普	○		122		イカル	夏普	○	
88		メボソムシクイ	旅少			123		シメ	留普	○	
89		エゾムシクイ	夏少			124	ハタオリドリ科	ニュウナイスズメ	夏普	○	
90		センダイムシクイ	夏普	○		125		スズメ	留普	○	
91		キクイタダキ	冬少			126	ムクドリ科	コムクドリ	夏少	○	
92	ヒタキ亜科	キビタキ	夏普	○		127		ムクドリ	夏普	○	
93		オオルリ	夏普	○		128	カラス科	ミヤマカケス	留普	○	
94		コサメビタキ	夏少			129		ハシボソガラス	留普	○	
95	エナガ科	シマエナガ	留普	○		130		ハシブトガラス	留普	○	
96	シジュウカラ科	ハシブトガラ	留普	○		131					
97		コガラ	留少			132					
98		ヒガラ	留普	○		133					
99		ヤマガラ	留普	○		134					
100		シジュウカラ	留普	○		135					
101	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	留普	○		136					
102	キバシリ科	キバシリ	留少			137					
103	メジロ科	メジロ	夏普	○		138					
104	ホオジロ科	ホオジロ	夏普	○		139					
105		ホオアカ	夏普	○		140					

〔参考資料〕　御大師山バード・オリエンテーリング

※ ルール

1．御大師山を歩き、姿，声などにより確認した野鳥を記録する。

2．歩道からむやみに離れたり、野鳥を脅かしたりなど、自然保護に反する行為をしたときは、失格とする。

3．野鳥だけでなく、木や草花，昆虫などもあわせて観察しましょう。

4．リストにない鳥は、すべて5点とする。

年　月　日　時　分～　時　分　天気

観察者

※ まとめ

5点（　　）種，3点（　　）種，2点（　　）種，1点（　　）種

合計（　　）種　（　　）点

	科名	種名		得点	確認
1	サギ科	アオサギ	夏普	2点	
2	ワシタカ科	トビ	留普	2点	
3		オジロワシ	旅少	5点	
4		オオタカ	夏少	3点	
5		ツミ	夏少	3点	
6		ハイタカ	留少	3点	
7		ノスリ	冬普	3点	
8		ハヤブサ	旅稀	3点	
9		チョウゲンボウ	夏少	3点	
10	キジ科	エゾライチョウ	留少	5点	
11		オオジシギ	夏普	2点	
12	ハト科	キジバト	留普	1点	
13		アオバト	夏少	3点	
14	ホトトギス科	カッコウ	夏普	2点	
15		ツツドリ	夏普	2点	
16	フクロウ科	フクロウ	留少	3点	
17	ヨタカ科	ヨタカ	夏少	3点	
18	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	夏少	3点	
19		アマツバメ	夏少	3点	
20	キツツキ科	ヤマゲラ	留少	3点	
21		クマゲラ	留少	5点	
22		アカゲラ	留普	2点	
23		オオアカゲラ	留少	3点	
24		コゲラ	留普	2点	
25	ヒバリ科	ヒバリ	夏普	2点	
26	ツバメ科	ショウドウツバメ	夏普	2点	

	科名	種名		得点	確認
27		ツバメ	夏少	2点	
28	セキレイ科	キセキレイ	夏少	2点	
29		ハクセキレイ	夏普	1点	
30		セグロセキレイ	夏少	2点	
31		ビンズイ	夏普	2点	
32	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留普	1点	
33	モズ科	モズ	夏普	2点	
34	レンジャク科	キレンジャク	冬普	2点	
35		ヒレンジャク	冬少	3点	
36	ミソサザイ科	ミソサザイ	留少	3点	
37	ヒタキ科	トラツグミ	夏少	2点	
38	ツグミ亜科	クロツグミ	夏普	3点	
39		アカハラ	夏普	2点	
40		シロハラ	冬普	2点	
41		ツグミ	冬普	2点	
42	ウグイス亜科	ヤブサメ	夏普	2点	
43		ウグイス	夏普	2点	
44		メボソムシクイ	旅少	2点	
45		エゾムシクイ	夏少	2点	
46		センダイムシクイ	夏普	2点	
47		キクイタダキ	冬少	2点	
48	ヒタキ亜科	キビタキ	夏普	3点	
49		オオルリ	夏普	3点	
50		コサメビタキ	夏少	2点	
51	エナガ科	シマエナガ	留普	2点	
52	シジュウカラ科	ハシブトガラ	留普	1点	

	科名	種名		得点	確認
53		コガラ	留少	2点	
54		ヒガラ	留普	2点	
55		ヤマガラ	留普	1点	
56		シジュウカラ	留普	1点	
57	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	留普	2点	
58	キバシリ科	キバシリ	留少	3点	
59	メジロ科	メジロ	夏普	2点	
60	ホオジロ科	ホオジロ	夏普	1点	
61		カシラダカ	旅少	2点	
62		ミヤマホオジロ	冬少	3点	
63		アオジ	夏普	1点	
64	アトリ科	アトリ	冬普	2点	
65		カワラヒワ	夏普	1点	
66		マヒワ	冬普	3点	
67		ベニマシコ	夏少	2点	
68		ウソ	夏少	3点	
69		イカル	夏普	3点	
70		シメ	留普	2点	
71	ハタオリドリ科	ニュウナイスズメ	夏普	2点	
72		スズメ	留普	1点	
73	ムクドリ科	コムクドリ	夏少	2点	
74		ムクドリ	夏普	1点	
75	カラス科	ミヤマカケス	留普	2点	
76		ハシボソガラス	留普	1点	
77		ハシブトガラス	留普	1点	
78					

4．おわりに

栗山の自然は、とり立ててすぐれているわけではない。しかし、身近な場所に自然が残されており、自然と触れあう場としては、すぐれている。いきものの里づくりを通して、もっと多くの人に自然と触れ会う機会を持ってもらいたいと思う。

（追記）……御大師山　バード・オリエンテーリングについて

御大師山で見られる野鳥の紹介を兼ねて、この様なものをつくってみた。なかなか好評で、子供達もゲーム感覚で楽しんでいる。チェックリストのかわりにもなるし、確認の欄を工夫すれば、フィールドノートとしてもつかえる。（例えば、S…ソング、C…コール、V…ビジュアルなど）……資料を参照ください。

ふれあいプラザに置いてあり、来訪者は自由に持っていって使うことができる。申し込めば、双眼鏡も借りれるようになっている。

野幌森林公園など、定例化している探鳥会等で用いても面白いのではないだろうか。

（069－15）夕張郡栗山町中里64

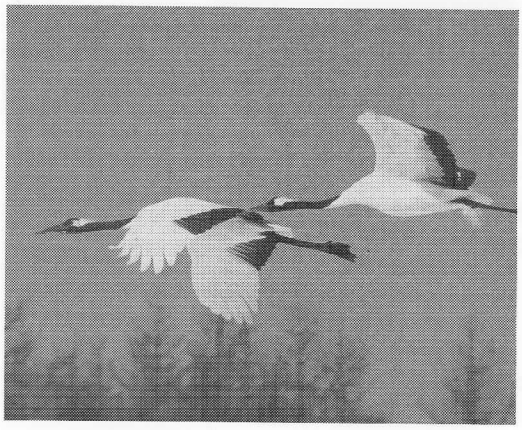
（編輯者付記）……“ふれあいプラザ”利用案内

区分	5月～11月	12月～4月
10：00～18：00	一般開放	団体開放
18：00～22：00	団体開放	団体開放

※休館日　毎週火曜日・祝日・年末年始

※申込先　栗山町教育委員会（2－1111）

誌上写真展（1）　平成3年度



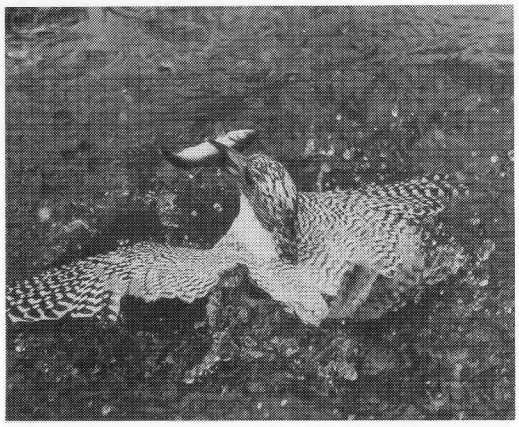
タンチョウ　和久雅夫

アオバト　遠藤茂

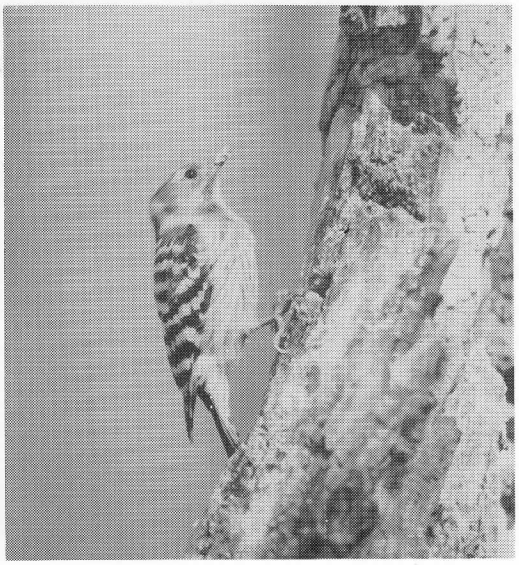
エトピリカ　三船喜克

エゾフクロウ　難波茂雄

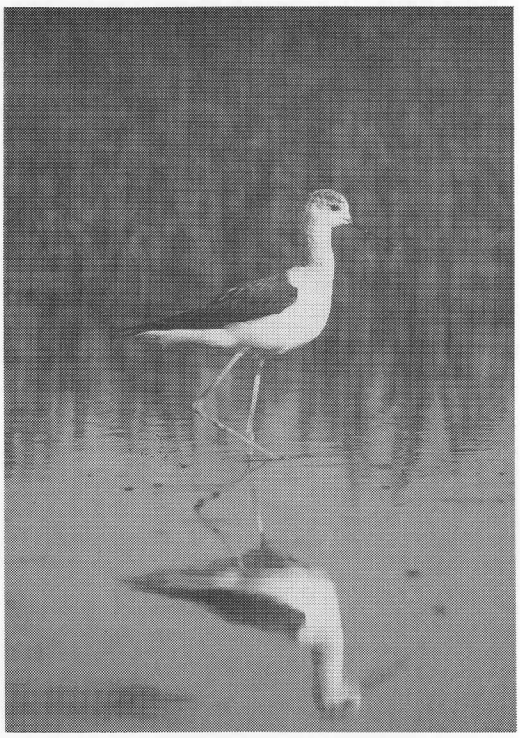
ユリカモメ　　入江智一



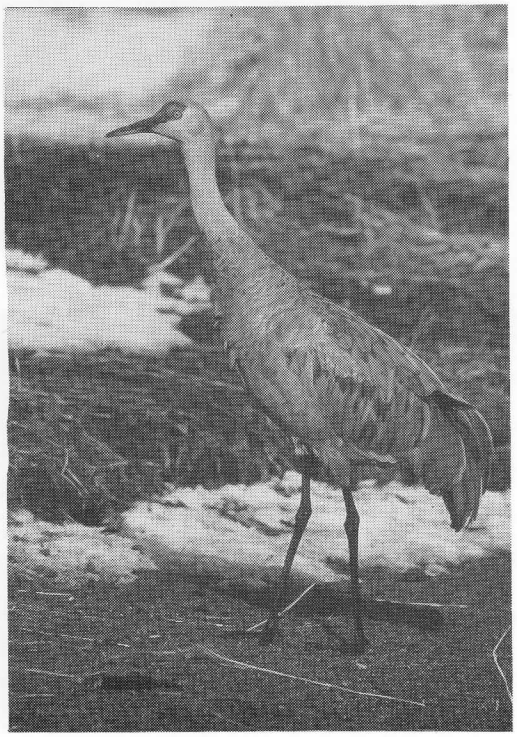
ヤマセミ　　酒井一光



コゲラ　　山本一



セイタカシギ　　見延誠一



カナダツル　　山田良造

野幌森林公園の探鳥会に参加して

3．5．5

宇野　節子

すばらしい晴天に恵まれたゴールデンウィーク中の子供の日に、野幌森林公園の大沢口の集合場所には、大勢の人が集まっていて、名札が足りなくなったと、係の人が、うれしい悲鳴をあげていました。

小学生以下の子供から80才台と、幅広い年令層で家族ずれが目立ちました。

幹事の方の挨拶の後、今日はじめての参加の人とベテランとに分かれて並ぶと８割方がはじめての参加で、お互顔を見合わせほっとしました。

指導員を先頭に出発し、道端でえさをついばむ、アオジの姿をしばらく観察しました。コゲラの木をつつく姿や、あちらの枝、こちらの枝と飛び廻るアカゲラを見つけ、双眼鏡をのぞく人、図鑑を開き「この鳥だ」と指さしている人、カメラのシャッターを押している人と、皆声をあげて、あそこだ…ここだとにぎやかなこと、ピントをあわせたプロミナをのぞかせていただき、アカゲラの姿をはっきりと見た時には、本当に感激しました。キツツキ類の木を連続的にたたく音が、ひびき、ドラミングという言葉もはじめて教えていただきました。空を見上げると、アオサギが悠々と飛んでいて、鳥にとっては、今は恋の季節で、木々もまだ葉がおい茂っていない為に姿がよく見えて、バードウォッチングには今の季節が最適とのことで多くの鳥のさえずりを耳にしました。ベテランの指導員の方は、すぐ鳴き声を聞きわけられますが、私にはどの鳴き声も同じ様に聞こえ、どうしてわかるのかと不思議で感心しました。

昨年、本州より引越して来て、森林公園は近くなので今迄にも紅葉の季節、歩くスキーと訪ずれていましたが、漫然としか見ていなく、今日細かく説明していただき自然あふれる森林公園のすばらしさを再認識し、何か目標を持って歩くことのすばらしさも教えていただきました。機会がありましたら、四季折々、訪ずれたいと思っています。

今日一日、色々お世話いただいた係の皆様に心よりお礼申し上げます。

〒069　江別市大麻93－３

〔記録された鳥〕カイツブリ、アオサギ、トビ、ハイタカ、オシドリ、キンクロハジロ、オオジシギ、キジバト、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、ルリビタキ、クロツグミ、アカハラ、ツグミ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、キクイタダキ、オオルリ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、メジロ、アオジ、クロジ、シメ、カワラヒワ、ウソ、イカル、ニュウナイスズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス　以上40種

〔参加者〕佐々木甫・晴子、工藤孝司、藤沢至代、熊谷洋子、神田　稔・豊子、合田敏子、河合理恵子、柳沢信雄、永島良郎・トキ江・麻子、浪田良三、鈴木亮平・典子、野坂英三、高橋昭三・教子、秋浜聡昌・万紀子、池田綾子、米重勝彦・紀枝子、高橋孝次・洋、森　昇徳・須枝、松井　昌、大西典子、鈴木克司、真田範子、三森れい、土屋照子、福岡　慧、菅原友紀子、竹内　強、犬飼　弘、三船喜克・幸子、白髪すぎ、今野　弘、鈴木良弘、中村裕子、鎌田玲子、荒井貴美子、栗林宏三、五十嵐俊子、中川　清・玲子、菅原吉行・昭子、熊木　智・則江、森田新一郎、香川　稔、岩田五月、土屋美弥子、池田信雄、田畑　博・ひろ子・麻梨絵・あゆか、渡辺弘子、山崎まり子・正道、熊谷一美、和田ミサ、後藤義民、村上りうこ、渡辺勘治、菅原香里、佐藤恒夫・玲子、土田文恵、白崎繁仁、金子耕三、波佐美津子、井上公雄他氏名不詳　合計120名

〔担当幹事〕井上公雄、永島良郎

春　の　鵡　川

3．5．19

石谷義一

札幌からのバスの到着を待って、打ち合せに入る。その頃から、雨粒が落ち始める。早速数台の車に分乗して、現場に向う。例年鵡川の探鳥会は、川の右岸の牧場内で行なうのだが、今回は対岸へ。大分の距離がある。とても歩いては行けそうもない。河口に近い所で、車を降り、探鳥を始める。いる、いる。チュウシャクシギ、ダイゼンなど、盛んに餌をあさっている。なかに夏羽のオオソリハシシギも混じっている。始めて見る赤褐色のシギに、来た甲斐があったなあと、感激。ダイゼンも夏羽で、図鑑とそっくり。あきずに眼鏡を覗く。他の方々も皆熱心に、双眼鏡、フィールドスコープを使う。この頃から雨が次第に強くなってきた。車の中に引き返そうというリーダーの声で、切り上げる。もとの道を戻り、墓地の中へ車を止める。ここから牧場内へ入るのだ。各自、傘をさしたり、雨合羽をまとったりして、リーダーの後に続く。今度は川の右岸に沿って、探鳥を続ける。草原の中にもシギの声がする。時々、上空からも鳴声。アオアシシギの声にそっくり。秋の鵡川にいる錯覚さえする。中州にもキアシシギ、アオアシシギ、チュウシャクシギなど多

数いて、餌を採っている。それに加えて、アジサシ、ユリカモメの乱舞が美事だ。河口から牧柵に沿って、しばらく歩くと湿地帯で、流木から突然何かが飛び立つ。「ヨタカ！」と幹事氏。それが10米も離れていない杭に止まる。まぎれもなく、ヨタカ。遠くへ飛び去る気配もなく、杭にうづくまる様に止まっている。カメラを構えた一人が近ずく。まだ飛び立たない。かなり近寄った所で、さっと飛び、反対方向の幹事氏の近くの杭に再び止まる。真昼間、ヨタカがこのように開けたところにいるのは、極めて珍らしいとのこと。上空を飛び去った２羽の白鷺を見送って、牧柵沿いに今朝の集合地点に戻る。

今日は、生憎の天気だったが、シギの種類も数も多い。加えて海の上を百羽以上のシギの群がいくつか北へ急ぐのも見た。それにしても参加人員の少ないのは残念であった。幹事の方々が、何年も春の鵡川を下見され、確信を持って開いた、今日の会に参加して本当によかったと思う。幹事諸氏に改めてお礼を申し上げる。有難うございました。

〒049－23　茅部郡森町字森川町

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、コガモ、マガモ、カルガモ、ムナグロ、ダイゼン、コチドリ、シロチドリ、、メダイチドリ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ホウロクシギ、ツルシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、イソシギ、キアシシギ、キョウジョシギ、オオジシギ、オバシギ、トウネン、ヒバリシギ、ハマシギ、ウミネコ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、シロカモメ、ユリカモメ、，ミツユビカモメ、アジサシ、キジバト、ヨタカ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ノビタキ、ホオアカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、チュウサギ、ウズラシギ、ワシカモメ　以上48種

〔参加者〕渡辺勘治、須藤昌子、小畑淳毅、石谷義一、志田博明・政子、山田良造、渋谷信六・弘子、泉　勝統、野坂英三、古川豊子、佐藤幸典、柳沢信雄、佐々木武巳、戸津高保・以知子、井上公雄、竹内　強　以上19名

〔担当幹事〕山田良造、野坂英三

植苗ウトナイ探鳥会に参加して

３．６．９

加　藤　有　樹

探鳥会というものは鳥に興味をもった当初、よく参加したが大勢で歩くのがあまり好きでなく、しばらく遠のいていた。

しかし最近じっくりと鳥をみる事がないのと草原ならみやすいだろうと思い野鳥愛護会の探鳥会に初めて参加しました。

まず名札をもらったが、名前を読んだり覚えてもらうのにとてもいい事だと思った。

又、プロミナーを持ってる人が多く、ベテランがいれてくれた鳥を待たずしてみれるのもうれしかった。

カッコウをじっくりみたり、期待していたノゴマを長い間みれた。ノゴマについては井上さんから真赤な梅干をもらった直後だけにその効果があったらしい。

井上さんは幹事をやられてる方だと後になって知りましたが気さくな人ですね。知らない人ばかりの中、一人で行くのは戸惑いがあるが愛護会の人達は親しみやすい雰囲気を感じました。

今回、行った植苗のフィールドはネーチャーセンター周辺（最近行ってないが）よりバードウォッチングを楽しめるのではないかと思いました。このまんまの草原がいつまでも残ってほしいと切に思ってます。

〒005　札幌市南区澄川４条８丁目３－15

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、チュウヒ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、オオジシギ、キジバト、アバト、カッコウ、ツツドリ、ハクセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、アカモズ、モズ、ノゴマ、ノビタキ、エゾセンニュウ、マキノセンニュウ、コヨシキリ、センダイムシクイ、キビタキ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ホオジロ、ホオアカ、シマアオジ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ニュウナイスズメ、スズメ、ハシブトガラス　計36種

〔参加者〕古川豊子、竹内　強、鎌田　博・キサ、矢野昭二・玲子、戸津高保・以知子、大町欽子、浪田良三・典子、志田博明・政子、吉田忠勝、須藤昌子、鎌田玲子、大西典子、松本輝雄・定子、武沢和義・佐知子、成沢里美、野口正男・キヨ、富田寿一、豊口　肇・美代子、今野　弘、小堀煌治、富川　徹・明美・優・愛沙、伊東、遠藤　茂・幸子、新田キノ、柳沢信雄、加藤有樹、野坂英三、永島良郎、桝川　保・弘子、佐野由美子、山田良造、高橋　洋、難波茂雄、井上公雄　以上49名

〔担当幹事〕富川　徹、富田寿一

私のフィールド・ノート「東米里探鳥会」より

３．６．16

浜　中　恒　寧

私が「探鳥会」なるものに参加したのは今回が二度目です。一昨年の夏、登山が目的で上高地へ行った時、ネイチュアーセンター主催の探鳥会に初めて参加したのでした。夏の強い陽射しも、豊富で美しい樹木によって柔かな木漏れ日となり、たくさんの野鳥がそこの森林生活を満喫しているかのようでした。小梨キャンプ場の中を

流れる小川でミソサザイの可憐な姿に出会い、あのすばらしい美声を聞いたのはたいへんうれしい体験でした。それ以来私にはどこへ行くにもカメラより双眼鏡が必需品になり、また同時に一層バード・ウォッチングに愉しみと喜びを見いだすようになりました。

東米里の探鳥会当日は早朝から快晴で、草原の野鳥観察には絶好の日和になりそうでした。東米里小学校には双眼鏡やプロミナを持った方が何人も集まっていました。学校前の林からはエゾセンニュウのまことに元気の良い朝の挨拶が聞こえてきました。指導の先生の挨拶があってすぐ出発。わずか10～20分の間にも、コムクドリ、アリスイ、モズ、カワラヒワなど次から次と鳥の説明がありました。手帳にメモする間も忙しく、観察ガイドブックで初見の鳥の確認をしていると「カモだわ！」の声。学校前に側溝があって、そのゆるやかな流れを見やると、水草の間をカルガモの親子（子が6羽）が連なって泳いでおり、なんとも微笑ましく幸せなシーンでした。まもなく、空き地にヤブの広がっているちょっとした草原風景になりました。はるか遠くには藻岩山や手稲山が見えます。カッコウの声が聞こえ、電線にとまっている姿をこの時初めて観ることができました。ノビタキの番いは幼鳥といっしょにいました。その時、「ノゴマですよ！」。参加者全員の視線が先生の示す方向に向いました。私のレンズにも灰色の全身になんとも鮮やかで美しい喉下の紅色をとらえることができました。その魅力的な容姿に一瞬息をのみました。厚別新川への道ではオオジュリン、モズ、アカモズを、川の堤からはアオサギ、イソシギを観察することができました。

今回10種近くの鳥を新たに知ることができましたが、今後は野鳥の生態の勉強が一層愉しみになりそうです。われわれ人間の諸活動は鳥類などの動物にとってあまりに負のインパクトが大きく、考えさせられる事が多いのですが、望ましい環境の在り方を考えつつ野鳥観察を続けたいと思います。

〒064　札幌市中央区南２条西28丁目第１睦ＭＳ201

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、チゴハヤブサ、マガモ、カルガモ、コウライキジ、イソシギ、オオジシギ、キジバト、カッコウ、アリスイ、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、アカモズ、モズ、ノゴマ、ノビタキ、アカハラ、エゾセンニュウ、コヨシキリ、ホオジロ、ホオアカ、シマアオジ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス　31種

〔参加者〕佐々木武巳、菅原哲夫、田中志司子、菊地キミ子、広川淳子、三船喜克・幸子、松本輝雄・定子、今田妹子、浜中恒寧、鎌田　博・キサ、大野信明、久田伸一・通江、鈴木克司、野坂英三、戸津高保・以知子、新田キノ、浜田　強　以上22名

〔担当幹事〕戸津高保、野坂英三

楽しみ探鳥記

3．7．7

久田伸一

皆さん、初めまして。今年のバードウィークからという新米ウォッチャーです。よろしくお願い致します。

バード・ウォッチングに興味を持ったそもそもの発端は、パソコン通信で自然をテーマにした会議室が開設され、そこで、全道各地の自然に関する話しが取りあげられるようになったからです。始めは、そこで交わされる探鳥会報告や、自然観察の話題を読んでも、スズメとカラスしか知らない私ですから、さっぱり理解できませんでした。そこで、ものは試しとバードウィークに企画されていた早朝ウォッチングなるものに参加、そこで一挙にのめり込んでしまいました。

以来、特別のことがない限り、毎日曜日にはどこかの探鳥会に出ています。なかでも昼食持参とある愛護会の探鳥会には欠かさず出るようにしています。野幌、東米里、平和は行けませんでしたが前回の福移、そして本日再び野幌。いずれも皆さんの親切なアドバイスがあって、ひとつひとつ知識が増えていきます。

新しい鳥を見たときの喜びは口では表現出きないものがありますね。ノゴマの真紅の喉元、オオジュリンの黒い頭、キビタキの黄色いおなか、スズメとカラスのモノクロの鳥たちしか知らなかった私には新鮮な感動でした。小さかったころ、近くの野山で遊んだ時から、ずっとずっと鳥たちはそこで変らず営々と生きていたのですね。40才もすぎて初めて、私のほうから近寄ってみてそのことに気付きました。大事なことを忘れていたような気がしました。

素敵な趣味として、永く続けていきたいね、と女房と話しあっているところです。

〒065　札幌市東区北42条東17丁目 道営住宅Ｒ－1－13

〔福移での記録された鳥〕アオサギ、トビ、オシドリ、カルガモ、ウズラ、コウライキジ、イソシギ、ウミネコ、キジバト、カッコウ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、アカモズ、モズ、ノビタキ、エゾセンニュウ、マキノセンニュウ、コヨシキリ、オオヨシキリ、ホオアカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト　以上30種

〔参加者〕笹谷敏郎・京子、柿崎　熙・空、吉田忠勝、道場　優、小堀煌治、羽田恭子、桜井弘七、佐藤　勇、桝川　保・弘子、中屋、泉　勝統、久田伸一・通江、横浜　優、浜田　強、戸津高保・以知子、服部光博、広川淳子、野坂英三、森田新一郎、澤里英雄、山田良造、宮田貞子、栗林宏三、鎌田　博　以上29名

〔担当幹事〕泉　勝統、戸津高保

探鳥会あんない

〔ウトナイ湖〕
平成３年11月10日（日）
南へ渡るマガン、ヒシクイ、オオハクチョウ等の群が羽を休める為に立ち寄り、時にはコウノトリ等の珍鳥も現われます。ネイチャーセンターからは、カラ類やキジ等が見られます。一部長ぐつが必要な所があります。
集合＝９：40、ウトナイレイクホテル湖畔側
交通＝道南バス（苫小牧行）千歳空港発９：10、ウトナイ遊園地下車。

〔小樽港〕平成３年12月８日（日）
シノリガモ、コオリガモ、ホオジロガモ、ウミスズメ、ヒメウ等の美しい海鳥が見られる数少い機会です。小樽駅からはバスで移動の予定です。海風は寒いので防寒に配意して下さい。
集合＝10：00、ＪＲ小樽駅待合室
参加費＝700円（予定）……バス代

〔藤の沢〕平成４年１月19日（日）
エサ台に集まるシジュウカラ、アカゲラ、カケス、エゾリス等を真近に見て、皆さんと親睦を深めましょう。持寄りのお酒やおつまみ、そして白鳥園の豚汁を食べ、野鳥クイズを解きます。野鳥グッズも、もれなく当る等、楽しい事は請け合いで、ぜひ参加して下さい。
集合＝10：00、白鳥園（南区藤野693－１）
交通＝定鉄バス、又は市営バス（定山渓線）地下鉄真駒内駅発、藤の沢下車、徒歩20分。
参加費＝500円（予定）

〔野幌森林公園を歩きましょう〕
平成３年11月３日（日）
平成３年12月１日（日）
集合＝９：00、大沢口駐車場入口
交通・夕鉄バス（文京台線）⑫新札幌駅発８：20、大沢口公園入口下車、徒歩５分。
・ＪＲバス⑩文京台循環線　新札幌駅発８：34、文京台南町下車、徒歩10分。
※いずれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行います。
※交通機関は変更等がありますので、利用される方は、各自で再調査をお願い致します。
※昼食・雨具・観察用具・筆記用具をご持参下さい。
※探鳥会の問合せは、011－551－6321、井上宅まで。
※前84号の「宮島沼探鳥会案内」の中でＪＲ岩見沢経由利用の中、中央バス（月形行）の乗車は中央バス岩見沢バスターミナルですので、お知らせ致します。

鳥便り

◆野鳥カレンダー（1992年版）発売について
北海道野鳥愛護会では、1992年カレンダーを作成します。このカレンダーは、１年１枚もので、サイズは新聞紙一枚大です。カレンダー編集委員会では応募作品の中から、北海道の季節にふさわしい６枚の野鳥写真を選びました。内容は下記の通りです。
１・２月……タンチョウ。３・４月……ギンザンマシコ。５・６月……クマゲラ。７・８月……シマアオジ。９・10月……シマフクロウ。11・12月……シロハヤブサ。
作品応募くださった会員の皆様にお礼申しあげます。なお、カレンダーは、10月販売予定で価格は１部600円になりますので希望の方は早目に申し込みください。
◎申込先　札幌市豊平区旭町４丁目１－１
戸津高保宛　＜T011－831－8636＞
◎送金方法……限定200部ですので早目に申込みください。郵送希望の方は、下記送料を加算のうえご送金ください。
◎送料　１部の場合175円。２～５部は250円。
６部～13部まで360円。14部以上…郵便小包料。
◎送金先　郵便口座番号　小樽０－18082
野鳥愛護会カレンダー係

◆訂正とお詫び
前84号に誤植がありましたので、お詫びして次のように訂正いたします。
１．11頁の平成３年度決算書は予算書の誤りです。
２．14頁のカレンダー価格１部600円の誤りです。

◆編集後記
野鳥だより84号で、短信投稿などについてお願い致したところ、早速に野鳥写真をつけての寄稿が届き感激致しております。次号にまとめて掲載の予定です。編集がマンネリにならないよう努めておりますが、是非皆さんの温い助言やご協力をお願い致します。（Ｋ・Ｉ）

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 1,500円（会計年度４月より）　郵便振替 小樽 １－18287
〒060　札幌市中央区北３条西11丁目 加森ビル５・６階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251－5465